

経済マンスリー

[原油]

供給超過幅が大きく縮小した 4-6 月期

原油価格（WTI 期近物）は 6 月以降、軟調に推移している（第 1 図）。WTI は 6 月初旬に 1 バレル＝51 ドル台と昨年 7 月以来の高値をつけた後、6 月 23 日の英国の EU 離脱を巡る国民投票を控えてリスク回避の動きが強まり、実際に離脱選択が判明した後も世界経済の先行き不透明感が増したことから、同 40 ドル台後半に軟化した。7 月に入り、米国の石油リグ稼働数の増加や、米ガソリン在庫が事前予想以上に増加したこと等が売り材料になったが、堅調な米国の 6 月分雇用統計や、予想を上回った中国 4-6 月期 GDP 統計等が価格を下支えし、足元の WTI は同 45 ドルを挟んだ小幅な値動きとなっている。

国際エネルギー機関（IEA）の月報 7 月号の掲載データによれば、今年 4-6 月期の世界の原油需給バランス（＝供給－需要）は 25 万バレル（日量、以下同）と供給超過の状態に変わりはないものの、超過幅は前期の 131 万バレルから大きく縮小した（第 2 図）。内訳は「35 万バレルの需要増加・71 万バレルの供給減少」と、供給減少幅が大きかった。さらに供給についてみると、OPEC の産油量は 27 万バレル増加したが、非 OPEC の産油量は 98 万バレル減少し、供給超過幅の縮小に大きく寄与した。

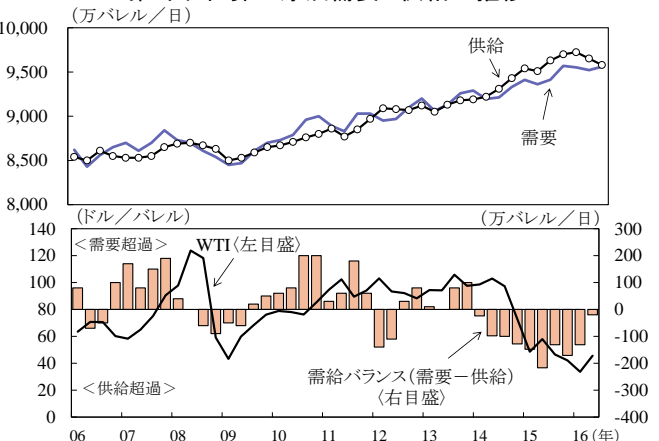
非 OPEC の中で最も生産が減少したのは、カナダである。5 月にオイルサンドの主要産地で発生した森林火災の影響により、生産減少量は前期比 80 万バレルに達した。しかしながら、カナダの生産減少は一時的なものであり、7-9 月期には平常時の生産レベルに回復すると見込まれている。こうしたカナダの原油生産回復に加えて、米国の石油リグ稼働数が 5 月末をボトムに増加傾向にあることも、最近の原油市場における供給過剰感を醸成している。足元の米国石油リグ稼働数は、2014 年 10 月のピーク時の約 2 割の水準と低く、米国の原油生産量は減少が続いているが、今後もリグ稼働数の動向に市場の注目が集まり、原油価格を左右する展開が想定される。

第1図：原油価格と米国の石油リグ稼働数の推移



(資料) Baker Hughes 資料、Bloomberg より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第2図：世界の原油需要と供給の推移



(資料) IEA 資料、Bloomberg より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱東京 UFJ 銀行 経済調査室 篠原 令子 reiko_shinohara@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しく願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。